「ギュラック」要指導医薬品 適正使用のためのチェックシート

◆このお薬の服用は、以前に医師から過敏性腸症候群の診断・治療を受けた方に限られます。
◆「ギュラック」は腸内の水分量をコントロールすることで、過敏性腸症候群による下痢や便秘症状を改善するお薬です。
このお薬を購入される前に必ず以下の項目を確認してください。ご不明な点は薬剤師にご相談ください。

1 以前、医師から過敏性腸症候群で診断・治療を受けたことがありますか?

- NO → 診断・治療を受けたことがない方は、医師の診断・治療を受けてください。
- YES → 受診年月 ＿＿年＿＿月 病院・診療所名 ＿＿＿＿＿＿

2 今回の症状は、前回、診断された時の症状と同じですか?
(診断から長期間経過しているのでわからない人は、NOを選択してください。)

- YES 症状が同じである
- NO 症状が同じでない又はわからない → 他の疾患の可能性がありますので、医師の診断・治療を受けてください。

3 このお薬や、他の過敏性腸症候群(IBS)の症状改善薬を、長期間にわたり繰り返し服用していませんか?

- YES 服用していない
- NO 服用している → このお薬を服用せず、医師の診断・治療を受けてください。

4 次の項目がひとつでもYESに該当する場合は、このお薬の服用はできません。医療機関を受診してください。

	YES	NO
● 次の症状がひとつでもある人 (就寝中などの夜間にも、排便のためにトイレに行きたくなったり、腹痛がある)(発熱がある)(関節痛がある)(粘血便(下血)がある)(繰り返すひどい下痢がある(3回/日が1週間以上続く))(急性の激しい下痢がある)(排便によってよくならない腹痛がある)(嘔吐がある)(6ヶ月以内に、3kg以上の予期せぬ体重減少)	□	□
● 次の病気にかかったことのある人 (大腸がん)(炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎等))	□	□
● 腹部の開腹手術を受けたことがある人で、次の症状を起こしている人(胃腸閉塞を引き起こす可能性がある) (激しい腹痛)(ガス排出(おなら)の停止)(腹部膨満感を伴う著しい便秘(胃腸閉塞様症状))	□	□
● 次の治療を受けている人(急性腹部疾患(虫垂炎、腸出血、潰瘍性結腸炎等))(高カルシウム血症)(腎結石、腎不全(透析中を除く))	□	□
● 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人 (本剤:ギュラック、本剤の成分:ポリカルボフィルカルシウム)	□	□
● 嚥下が困難な人(食べ物などが飲み込みにくいと感じている人)	□	□
● 15才未満の小児又は75才以上の高齢者	□	□
● 次の医薬品を服用しており、中止できない人(本剤と併用できないお薬です) (過敏性腸症候群(IBS)の症状改善薬(トリメブチンマレイン酸塩等)、活性型ビタミンD製剤(アルファカルシドール等)、カルシウム剤(乳酸カルシウム等)、強心配糖体(ジゴキシン等)、抗生物質(テトラサイクリン、ノルフロキサシン等)、プロトンポンプ阻害剤(オメプラゾール等)、H_2ブロッカー(ファモチジン、ラニチジン等)、制酸剤(水酸化アルミニウムゲル、水酸化マグネシウム等)を含有する医薬品)	□	□

- YES → ひとつでも「YES」がある場合は、服用しないでください。
- NO → すべて「NO」の場合は⑤へお進みください。

5 (4の項目がすべてNOの場合)以下の場合に該当しないか、更にご確認ください。
ひとつでもYESに該当する場合は、このお薬が服用できない場合があるため、医師又は薬剤師に相談してください。

	YES	NO
● 医師の治療を受けている人	□	□
● 妊婦又は妊娠していると思われる人	□	□
● 50才以上の人	□	□
● 貧血がある人	□	□
● 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人	□	□
● 次の診断を受けた人(糖尿病)(甲状腺機能障害)(副甲状腺機能亢進症)	□	□
● 高カルシウム血症の現れやすい人(ビタミンD過剰症等)	□	□
● 胃酸の分泌が欠乏又は減少、もしくはそれらの疑いのある人	□	□
● 大腸がん、炎症性腸疾患の家族がいる人	□	□
● 腹痛、便秘がひどい人(便秘がひどい:排便が2回以下/週)	□	□
● 透析を受けている人	□	□

- YES → ひとつでも「YES」がある場合は、本剤が服用できない場合があるため、医師又は薬剤師にご相談ください。
- NO → すべて「NO」の場合は、本剤を服用いただけます。

上記の質問から服用可能な場合は、次のことを必ず守ってください。

- 定められた用法・用量を厳守してください。
- 2週間服用しても症状がよくならない場合は、服用を中止し、添付文書をもって医師又は薬剤師に相談してください。
- このお薬を服用している間は、添付文書に記載の併用できないお薬は服用しないでください。
- 長期連用しないでください。
- 症状の改善がみられても、服用は最大4週間までとしてください。